

次期衆院選の当落予想（第1弾）

一般社団法人日本みらい研

選挙協力は立・維・国以外は成果なし、現状では自民優勢！

次期衆院選へ向けた各党の選挙戦略と当落予想

- 現時点における次期衆院選の当落予想をまとめてみた。予想に際しては基準値を以下の形で設定している。情勢が大きく変化した場合は、予想議席は全く異なるものとなる。
- 投票率は前回並みの54%前後とし、前回の候補者及び政党の**獲得票を市町村単位で算出、比例票の無党派分は次回の投票傾向を予測し振り分け直した。内閣支持率や政党支持率は各報道機関の平均値を基準**としている。各社の直近の世論調査結果等は別紙にまとめた。
- その上で、**地域情勢や候補者の経歴、人気度を指数化し、各候補者の基礎票を算出した。自民**は保守層の一部が他党へ流れる可能性があることから**厳しめ**に査定、**立憲**も現状の党勢から**厳しめ**とした。無党派は維新の勢いを考慮し**維新に多め**に配分し、全ての選挙区で各党の候補者の予想票を細かく分析している。
- 野党は各党が候補者を擁立することを前提とし、自公は東京以外は選挙協力、東京は選挙協力をしない状態で集計している。その上で、**①立憲、共産、社民、れいわで選挙協力**を行った場合、**②立憲、維新、国民で選挙協力**した場合、**③立憲中心グループと維新・国民がそれぞれに選挙協力**した場合に分け、当落を予想した。
- 各党が既に多くの選挙区で候補者を決定していることから、選挙協力は簡単ではない。立憲が一本化を呼びかけても維新や国民は乗らない可能性が高い。①の形は共産や社民が受け入れる可能性が高く、れいわも参加の余地がある。しかし、立憲と共産・社民、れいわだけでは力不足である。この形で選挙協力をしても、効果はほとんどないだろう。
- 維新は党勢に勢いはあるが、議席の伸ばすのであれば国民とは連携した方が良い。また、できるかどうかは別として、立憲が左寄りのグループを切り維新や国民と候補者の一本化を目指せば、**自公を過半数分れ**に追い込むことは可能だ。しかし、立憲がこの判断をする場合は、党が分裂する恐れもあるが、この形が実現すれば選挙は保守系の2グループと革新系の1グループに分かれ俄然面白くなる。
- 公明は関西圏の議席は全滅の可能性が高く、東京でも自民との選挙協力がなければわずかな議席しか得ることはできない。自民も東京で公明の協力がなければほとんどの選挙区で議席を失う可能性が高く、比例でしか生き残れない。**東京での自公協力**は連立を維持するためにも実現する必要がある。
- 当落予測では、289の選挙区のうち、**①③で200、②で163**の選挙区で当確が出る。残りの選挙区は情勢次第で流動的だが、接戦の選挙区を細かく分析し、比例票も積み上げると、①③では自民は現有議席と変わらない議席を確保できることが判明した。公明は、関西で苦戦し東京も自公協力が破綻していることから、選挙区で大きく議席を減らす。維新は無党派層でも支持が多く、どのケースでも立憲を抜いて野党第1党に踊り出る。立憲は②のケース以外では大幅に議席を減らす結果となっている。
- 従って今のところ、**選挙は自民に有利**となる可能性が高く、**維新の躍進も際立つ**結果になる。立憲が本気で勝利を目指すなら、代表を変えて選挙に挑むか、②の維新・国民との大同団結しか方法はない。その覚悟は持てるかどうか鍵となる。戦略もなく目指す150議席は、空虚な数字だ。自民は岸田内閣で保守層の一部が離れることが懸念材料となるが、野党の足並みが揃わなければ地力で勝る。維新にはまだ政権交代を迫る勢いはなく、各党が候補者を乱立すれば、思ったほどの議席増とならない可能性もある。

地力で勝る自民、躍進の維新、どうする立憲？

- **自民**：岸田政権は外交政策では安倍政権の外交方針を引き継ぐが、内政ではリベラル色を出し野党の政策も柔軟に受け入れることが多い。野党の稚拙な追及に助けられている部分もあるが、安倍政権の突破型の国会運営に比べ、岸田政権は批判を正面から受け止め説明を果たす姿勢を徹底しており政治手法は手堅い。政権運営でも歴代内閣以上にしっかり結果を残している。しかし、政策がなし崩し的に決まることも多く、政策決定の過程や説明が不十分との批判もある。政策の核となる理念を明確にし、国民にわかりやすく説明していかないといずれ行き詰まる可能性がある。また、衆目が一致するポスト岸田が見当たらないことが将来の不安要因ともなる。しかし、現時点では、東京以外は自公協力が機能しており、地力のある地方では自民優勢の構図は変わらない。ただし、東京、大阪は厳しく、北海道、神奈川、福岡などでは苦戦してる選挙区もある。
- **公明**：関西圏は維新との協力関係が崩れ全滅する可能性が高い。東京でも自民との関係が悪化しこのまま選挙戦に突入すると議席の確保は難しい。比例では前回並みの議席を確保できても、小選挙区は大半で議席を失うだろう。東京での関係悪化は今後の自公関係にも大きく影響するので、連立維持のためにも自民との関係の修復が課題となる。
- **立憲**：完全に負のスパイラルに陥っている。国会では本論からずれた的外れの質疑が多く、他党を厳しく批判しながら自分たちに甘い姿勢に、有権者も呆れている。党内に左右のグループがあり、執行部もコントロール不能だ。泉代表は150人の当選を果たせなければ退陣すると言うが、目標の設定が非現実的だ。立憲は、党の代表を変えるか、党内の左右のグループが分かれて別の組織になるしか生き残る道はないだろう。野党統一候補を目指す道は、足し算だけで考えるのは誤った考えだ。この方法で同調するのは、共産、社民、れいわくらいで、維新や国民は同調しない。このままなら立憲は大きく議席を減らす。起死回生のウルトラCは、維新・国民との連携だ。この場合は、やり方次第で自公を過半数割れに追い込むことも可能だが、党内左派グループの処遇が問題となる。しかし、党を割るくらいの覚悟がないと下落傾向に歯止めはかからない。
- **維新**：身を切る改革と是々非々で与党に挑むブレない姿勢が、立憲に代わる選択肢として期待が広がっている。馬場体制は、橋本・松井時代に比べ傑出した人材は少ないが、全員野球でチーム維新を徹底している。政治姿勢は保守で自民とも重なる部分が多いため、岩盤保守層の一部では維新を支持する人も出てきた。身を切る改革は、維新が結党以来ブレずに貫いている姿勢であり一定の評価がある。そのため、自公政権ではできないことも維新ならやってくれるのではと期待する人は多い。関西圏は圧倒的な強さだが、他の地域での浸透はこれからのため、全選挙区での候補者擁立が急がれる。維新から立候補を希望する人は急増しているが、問われるのは候補者の質である。優秀で地力のある候補者をできるだけ多く発掘することが課題だ。焦らずに良い候補者を選び、無党派の影響が大きい都市圏を中心に維新旋風を起こせば、大化けする可能性もある。
- **国民**：本来なら立憲への失望に対する受け皿となってもおかしくない存在だが、維新に期待が集まり存在感が薄くなってしまった。しかし、国民の提案は具体的なものが多く一定の評価はある。選挙の環境は厳しいが、維新と選挙協力を行えば相乗効果が期待できる。選挙協力のメリットは維新の方が大きい、国民にとっても現有議席+αを維持できるメリットがある。選挙後もいぶし銀の政党として存在感を高めていけば、その次を見据えた戦略が切り拓けるかもしれない。
- **共産**：非現実的な政策や組織の高齢化などで議席増は期待できないが、自公VS立憲国となり立憲から左派グループが離れた時はチャンスがある。革新系は一つ一つは小さなグループだが、組織力があるので、まとまれば保守系が2グループに分かれた際には十分対立軸になり得る。戦い方次第では善戦が期待できるかもしれない。しかし、この可能性は小さく、このままなら共産は10議席前後しか得ることはできないだろう。

次期衆院選の当落を①～③のケースに分けて予測

次期衆議院総選挙当落予測（2023/7/11時点）

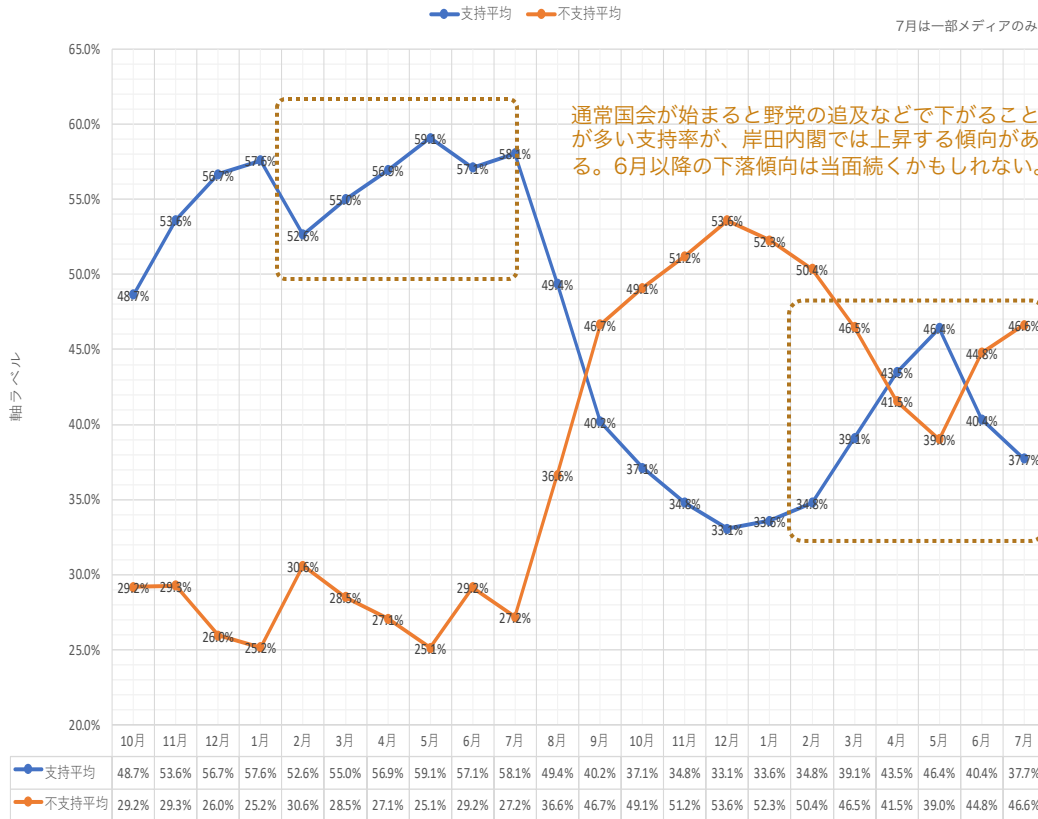
政党	候補者数	比例予測	①自公VS維VS国VS立共社れ		②自公VS立維国VS他野党		③自公VS維国VS他野党		現有議席	寸評
			小選挙区	予測議席	小選挙区	予測議席	小選挙区	予測議席		
自民	254	60	172	263	110	207	170	263	262	北海道、神奈川、福岡の一部が厳しい、東京は公明の協力がないと難しく公明票の行方が鍵、しかし大半は自民に流れる可能性が大きい、大阪は壊滅、岩盤保守層の一部は維新や参政に回る可能性あり
公明	12	22	2	26	1	24	2	26	32	関西の小選挙区は議席を失う可能性が高い、東京も自民との選挙協力がなく難しい
維新	108	41	21	89	35	114	25	93	41	大阪は全勝の勢い、兵庫や京都も勢いあり、候補者を全国で多数擁立することで比例票が上乗せとなる可能性が高い、自民票の一部は維新に流れる可能性がある
国民	20	7	2	9	2	10	2	9	10	維新の勢いに押され、存在感を出すのが難しい、選挙区を分けて維新と選挙協力をすれば議席を増やす可能性はある
立憲	151	32	3	63	15	95	1	60	95	選挙協力がなく議席は大幅減の可能性が高い、共産や社民、れいわと組む選択肢と維新や国民と組む選択肢があるが、維新や国民との協力は可能性が薄くてもこの両党と組む方が立憲にはプラスとなる
共産	86	9	0	10	0	9	0	10	10	党員の高齢化などで勢いはない、立憲との選挙協力が鍵となる
社民	2	1	0	1	0	1	0	1	0	1議席取れるかどうか微妙か
れいわ	5	1	0	1	0	1	0	1	3	比例でどこまで票を伸ばすことができるかが鍵となるが、現有議席の維持は難しいか
政党女		1	0	1	0	1	0	1	0	今回は参院選のようにはいかない可能性が大きい、ガーシー問題や党内の内紛の影響で1議席を獲得することも難しい状況
参政	48	2	0	2	0	2	0	2	0	自民の極端に右寄りの支持票が流れる可能性があり、場合によっては2議席以上を得る可能性もある
無所属	2		0	0	0	0	0	0	11	
欠員		0	0	0	0	0	0	0	1	
総計	688	176	200	465	163	465	200	465	465	投票率は前回並みの54%前後とし、前回の候補者及び政党の獲得票を市町村単位で算出し、比例票の無党派分は次回の投票傾向を予測し振り分け直した。その上で、地域情勢や候補者の経歴、人気度を指数化したものを加味し、各候補者の基礎票を予測。自民は保守層の一部が他党へ流れる可能性があることから厳しめの査定とし、立憲も現状の党勢から厳しめとした。無党派は維新の勢いを考慮し維新に多めの配分とした。
	残	0	89	0	126	0	89	0	0	
備考	候補予定者が一部含まれている	政党支持率に、党勢を指数化した支持なし層を加算し算出	東京などの約30選挙区が判断が難しく、200選挙区は当落が確定	自公で過半数は超え、維新は野党第1党となる	激戦区が増え、維新は大きく増やし、立憲も現状の維持が可能	自公の過半数は難しくなる	①と同様に7割近くが自民、大阪は全滅、東京は公明の協力が鍵	この場合は、維新が①より若干議席が増える		各党が候補者を擁立を表明しており選挙協力は簡単ではないため、基本的には自民に有利な選挙となる可能性が高い。自民は岸田内閣となり保守層の一部が離れることが懸念、公明は関西で維新の協力がなくなり、東京では自民と協力しないとしていることから厳しい。維新は立憲を抜き野党第一党となることはほぼ確実だが、各党の候補者が乱立していることから思ったほどの議席増とならない可能性もある。

* 小選挙区は当落が確定した数のみをカウント、予測議席は残りの小選挙区を予想得票に応じて割り振り比例分を加算した。予測議席の誤差は±5となる。自公の選挙協力が東京以外でも崩れると結果は全く異なるものとなる。

報道機関10社の内閣支持率及び政党支持率

内閣支持率の推移

内閣支持率（支持と不支持）の報道機関10社の平均値（2021年10月～2023年7月）



直近の政党支持率

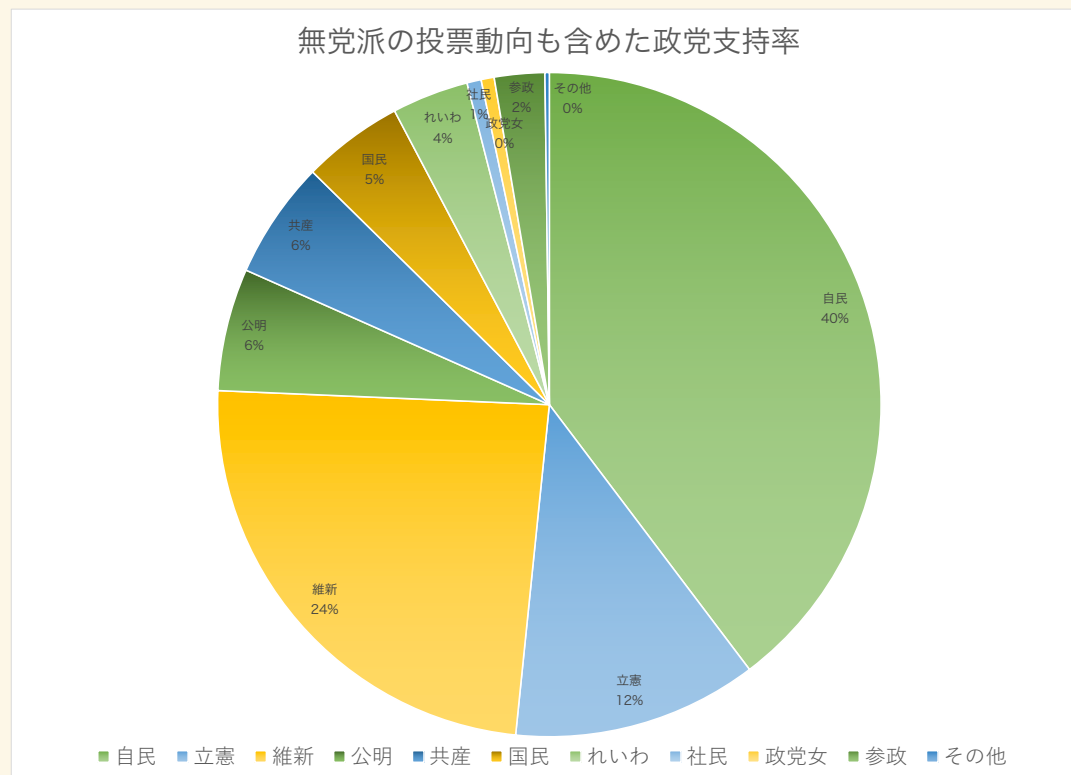
2023年6月の各社の政党支持率調査

	自民	立憲	維新	公明	共産	国民	れいわ	社民	政党女	参政	その他	支持なし
NHK	34.7%	4.1%	6.2%	3.5%	2.2%	1.2%	0.9%	0.2%	0.2%	0.9%	0.4%	38.6%
朝日	33.0%	4.0%	6.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	41.0%
読売	34.0%	4.0%	6.0%	3.0%	1.0%	2.0%	2.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	40.0%
毎日	29.0%	10.0%	15.0%	4.0%	6.0%	3.0%	5.0%	0.0%	0.0%	3.0%		23.0%
産経	34.2%	5.5%	7.7%	4.0%	2.6%	1.8%	1.8%	0.1%	0.2%	1.1%		37.7%
日経	34.0%	9.0%	12.0%	3.0%	3.0%	3.0%	3.0%	1.0%	1.0%	2.0%		27.0%
ANN	41.5%	8.0%	8.7%	3.9%	4.8%	1.5%	1.6%	0.3%	0.5%	1.1%		23.6%
JNN	32.7%	4.3%	7.9%	3.9%	2.5%	2.1%	1.4%	0.4%	0.2%	0.9%		39.3%
時事	22.4%	3.1%	4.5%	2.6%	1.7%	0.9%	1.2%	0.2%	0.2%	0.5%		59.8%
共同	34.4%	8.2%	16.8%	3.7%	3.8%	4.1%	1.9%	0.8%	0.1%	1.4%	1.9%	22.9%
平均	33.0%	6.0%	9.1%	3.4%	3.0%	2.2%	2.1%	0.3%	0.2%	1.2%	0.2%	35.3%

無党派の動向も含めた各政党の支持率

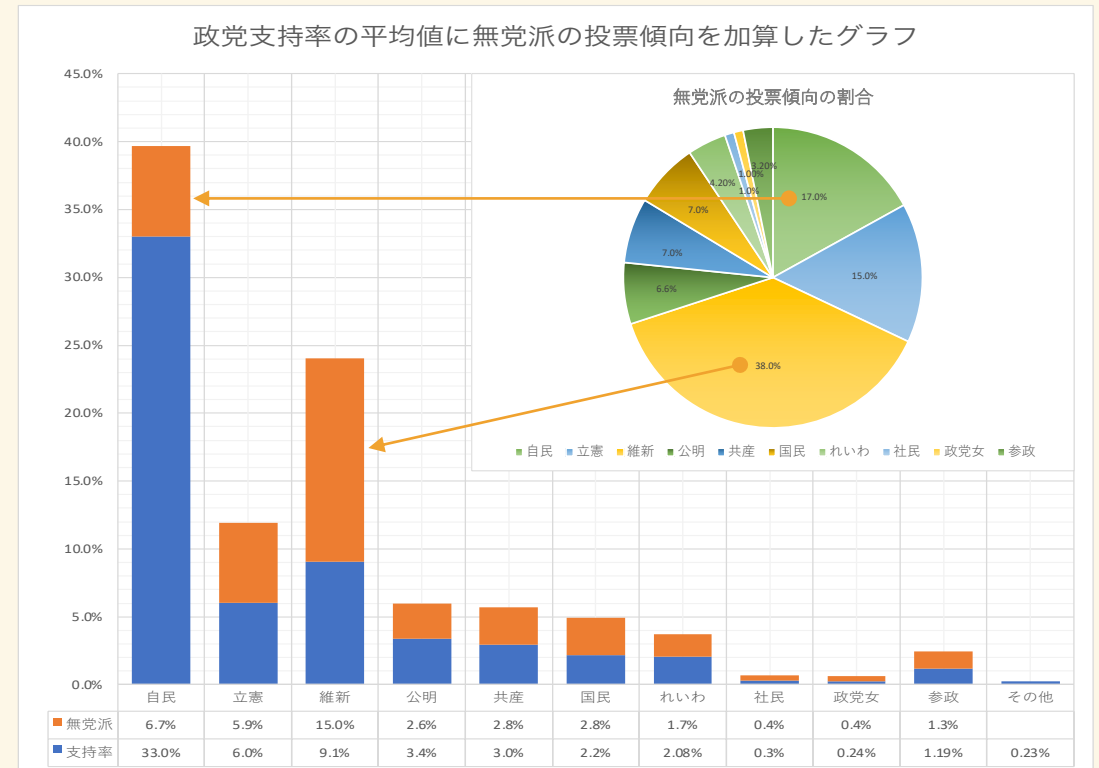
自民への投票は全体の4割

無党派分を再配分した政党支持率は、自民が39.7%、次いで維新が24.1%となる。立憲は11.9%と維新の半分にも満たない。



無党派の4割近くが維新

無党派は維新への期待が全体の4割近くを占め、自民は17%、立憲は15%となる。棒グラフは、支持率に無党派分を積み上げたグラフとなる。



参考資料 (選挙区ごとの当落予想例)

衆議院選挙予想得票分析								
北海道2区	候補者数	候補者名	回数	年齢	今回予想	前回小選挙区	前回比例	当落判断
自民	254	高橋祐介		42歳	52,446	43,723	67,399	5
公明	12				27,980	0	27,109	8
① 自民+公明					80,426	43,723	94,508	3
維新	108	山崎泉		50歳	46,782	19,427	29,302	7
国民	20				11,260	0	8,642	11
② 維新+国民					58,042			4
立憲	151	松木謙公	6	71歳	52,081	49,327	57,840	6
共産	86				25,109	0	24,207	9
社民	2				3,843	0	3,940	14
れいわ	5				11,881	0	10,322	10
③ 維+国+立					110,123			1
④立+共+社+れ					92,914	49,327	96,309	2
政党女	0				5,361	0	4,757	12
参政	48				4,268			13
その他	1							
①-④					-12,488			当確
①-③					-29,697			当確
①-②					22,384			当確
	687							

衆議院選挙予想得票分析								
大阪1区	候補者数	候補者名	回数	年齢	今回予想	前回小選挙区	前回比例	当落判断
自民	254	大西宏幸	2	55歳	38,596	67,145	47,469	6
公明	12				23,524	0	22,491	7
① 自民+公明					62,120	67,145	69,960	4
維新	108	井上英孝	4	51歳	126,595	110,120	100,041	3
国民	20				9,157	0	6,643	11
② 維新+国民					135,752			2
立憲	151			0	18,443	28,477	19,181	8
共産	86	竹内祥倫		41歳	16,341	17,194	14,849	9
社民	2				1,961	0	1,809	14
れいわ	5				10,354	0	8,830	10
③ 維+国+立					154,195			1
④立+共+社+れ					47,099	45,671	44,669	5
政党女	0				3,491	0	2,892	13
参政	48	藤田美季		0	3,991			12
その他	1							
①-④					15,021			当確
①-③					-92,075			当確
①-②					-73,632			当確
	687							

* 各選挙区毎にこのような形で分析し、予想得票でランクをつけ選挙区事情に応じて個別に判断している。予想得票は指数化した地域情勢や候補者の質、党勢等を組み入れて候補者毎に計算しており単純な加算ではない。

参考資料 (選挙区ごとの当落予想例の全体図)

衆議院選挙予想得票分析																
東京1区	候補者数	候補者名	回数	年齢	今回予想	前回小選挙区	前回比例	当落判断	前回当落	当選者数	小選挙区	比例復活	比例	前回比例総数	今回予想	議席予測
自民	254	山田美樹	4	49歳	45,739	23,269	59,779	5	◎	252	182	53	17	19,880,502	18,886,477	60
公明	12				17,931	8,129	16,995	9		32	9	0	23	7,102,471	7,031,446	22
① 自民+公明					63,670	31,398	76,774	2								
維新	108			0	42,024	10,339	28,103	6	○	42	17	25	0	7,973,622	10,525,181	41
国民	20				10,843	0	8,869	11		10	5	5	0	2,837,891	2,979,785	7
② 維新+国民					52,867			4								
立憲	151	海江田万里	8	74歳	28,860	9,958	33,149	7	○	94	57	37	0	11,223,973	9,540,377	32
共産	86				20,459	0	19,851	8		10	1	3	6	4,228,634	4,440,066	9
社民	2				2,524	0	2,534	14		1	1	0	0	1,017,154	996,811	1
れいわ	5				11,271	0	10,180	10		3	0	2	1	795,253	954,304	1
③ 維+国+立					81,727			1								
④立+共+社+れ					63,115	9,958	65,714	3								
政党女	0				3,460	0	2,981	12		0	0	0	0	795,253	516,914	1
参政	48	吉川里奈		0	3,060			13							975,660	2
その他	1									8	8					
①-④					555				—							
①-③					-18,057			当確								
①-②					10,803											
	687								—	452	280	125	47	55,854,753	56,847,022	176
														定数減による小選挙区10議席および比例復活3議席を除く総計	投票率は前回並みを想定	